

5

色彩検討の手順

5-1 色彩検討のプロセス

景観法に基づく建築物や工作物等の一定規模の行為（大規模建築物等）の届出が必要なものに対しては、下記の3つのプロセスに沿って色彩検討を行っていただき、その内容を協議させていただきます。

都市景観形成地区を除く届出対象とはなっていない戸建て住宅等の小規模な建築物等については3つのプロセスの他、参考として「簡易版色彩検討プロセス」をご紹介します。 →届出が必要な対象についてはP21参照

1 まとまり感をつくる ① 調和色から選ぶ →詳細はP23参照

「調和色」を用いたまとまり感を重視したプロセスで、誰もが平易に景観計画を実現できるようにとりまとめたものです。

協議には、プロセスに則った作業シートへの記載と色彩検討のためのチェックシート、視点場からのパース等シミュレーション図等の色彩検討図書を用い行ないます。



2 まとまり感をつくる ② 個別で検討する →詳細はP29参照

「調和色」より自由度の高い景観計画の色彩基準の範囲内の色を用いますが、調和色選定の考え方を取りまとめた「調和のための作法」をもとに個別で色を検討することで、一定の調和レベルが得られるとともにデザインの多様性が豊かな都市像の構築に寄与されます。

このプロセスを用いた協議は、プロセスに則った作業シートへの記載と色彩検討のためのチェックシート、視点場からのパース等シミュレーション図の色彩検討図書で行ないます。



3 まちのアクセントをつくる 優れた個別のデザイン →詳細はP35参照

まちのアクセントをつくるプロセスの条件（右頁参照）に合致した立地に計画される建築物等については、「調和色」より自由度の高い、景観計画の色彩基準の範囲内の色により積極的に優れたデザインで色彩検討が可能です。優れたデザインがまちのアクセントになって景観形成の推進役となることが期待されます。

このプロセスでは、チェックリストと提案プロセスによる色彩計画、パース等シミュレーション図等のアドバイザー会議準備図書（色彩検討図書）により景観アドバイザー会議にて協議し、専門家のアドバイスのもと調整を経て決定となります。右頁にプロセスの要点を表にまとめました。



プロセスの要点

	調和色	景観計画 色彩基準	調和のための 作法	使用色の 自由度	色のまとまりと 変化	色の印象
まとまり感をつくる①	○	○	○ ※	低い ↑ ↓ 高い	まとまり ↑ ↓ 変化	ベーシック ↑ ↓ 独創的
まとまり感をつくる②	△	○	○			
まちのアクセントをつくる	—	○	△			

参考 簡易版色彩検討プロセス

→詳細は P41 参照 ※色彩の選定にあたっては調和色の範囲から選ぶため調和のための作法を考慮する必要はありませんが、考え方の理解は必要です。

「調和色」を用い、簡単な作業をすることで一定のまとまり感のある色彩景観が共有出来るように用意したものです。基本的には、3つのプロセスの「まとまり感をつくる①調和色から選ぶ」STEP 1~4 までの手順を踏みますが、内容は家庭や一般向けとして手始めに行なっていただけるよう平易なものとしています。

まちのアクセントをつくる プロセスの条件

まちのアクセントをつくるプロセスを選定するには以下の立地条件が必要です。

(1) 立地条件によりアクセントとなるもの

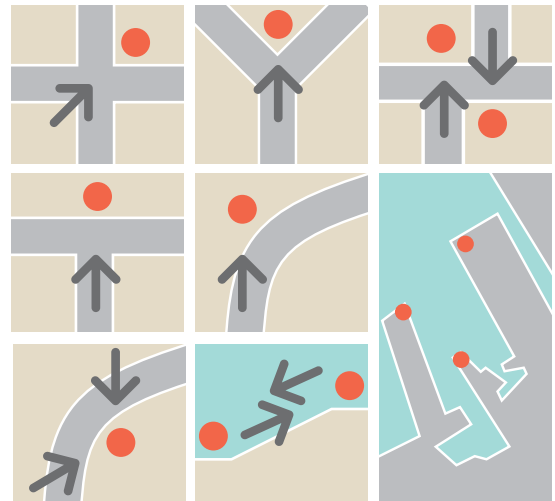
- 主要な交差点に面するもの
- 通りの軸線上にあるもの

※通りが河川の場合や港湾の場合も同様です。

アイストップとなる立地に建つ建築物等をまちのアクセントとして個別にデザインしていただくことにより効果的に印象的なまちなみを形成します。

アイストップとは空間を見通す時視線が集中する位置につくられるものを指します。

イメージ例



(2) 規模によりアクセントとなるもの

- 周辺から突出するもの

規模が大きいものは周辺から突出するため、色彩については周辺と調和する優れたデザインを検討していただくことにより、質の高い景観形成を進めていきます。



5-2 各プロセスの流れ

まずプロセスを選んでいただき、各プロセスごとに異なる内容で検討作業を進めていただきます。

色彩検討のプロセスは、共通事項の STEP1～STEP2 の場所の確認や地域の特性の把握を経て、STEP3～STEP4 の基調色と配色の選定や考え方を整理し、選定色によるパース等シミュレーション図作成で確認し決定となります。実際の流れは P23 以降の各色彩検討プロセスでご確認下さい。

色彩検討のプロセスを行う対象物

市全域における届出が必要な一定規模の行為（下記に示す大規模建築物等）

届出が必要な行為・規模（大規模建築物等の届出）

- 1 都心ゾーン、一般市街地ゾーン、港湾ゾーンにあつては、高さが 31m を超え、又は延べ面積が 10,000m² を超えるもの

建築物

- 2 山の辺・田園ゾーン、海浜ゾーンにあつては、高さが 10m を超え、又は延べ面積が 1,000m² を超えるもの
- 3 福岡市都市計画高度地区の許可を受けて建築物の高さの最高限度の規定を適用しないこととされた全ての規模のもの
- 4 建築基準法第 59 条の 2 第 1 項の規定による許可を受けた全ての規模のもの

工作物

- 1 都市ゾーン、一般市街地ゾーン、港湾ゾーンにあつては、高さが 31m を超えるものとする。ただし、工作物のうち、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋その他これらに類するものについては、幅員が 10m を超え、又は長さが 30m を超えるとする。
- 2 山の辺・田園ゾーン、海浜ゾーンにあつては、高さが 10m を超えるものとする。ただし、工作物のうち、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋その他これらに類するものについては、幅員が 10m を超え、又は長さが 30m を超えるとする。

都市景観形成地区における下記の全ての行為

届出が必要な行為・規模

- 1 建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更
- 2 工作物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更

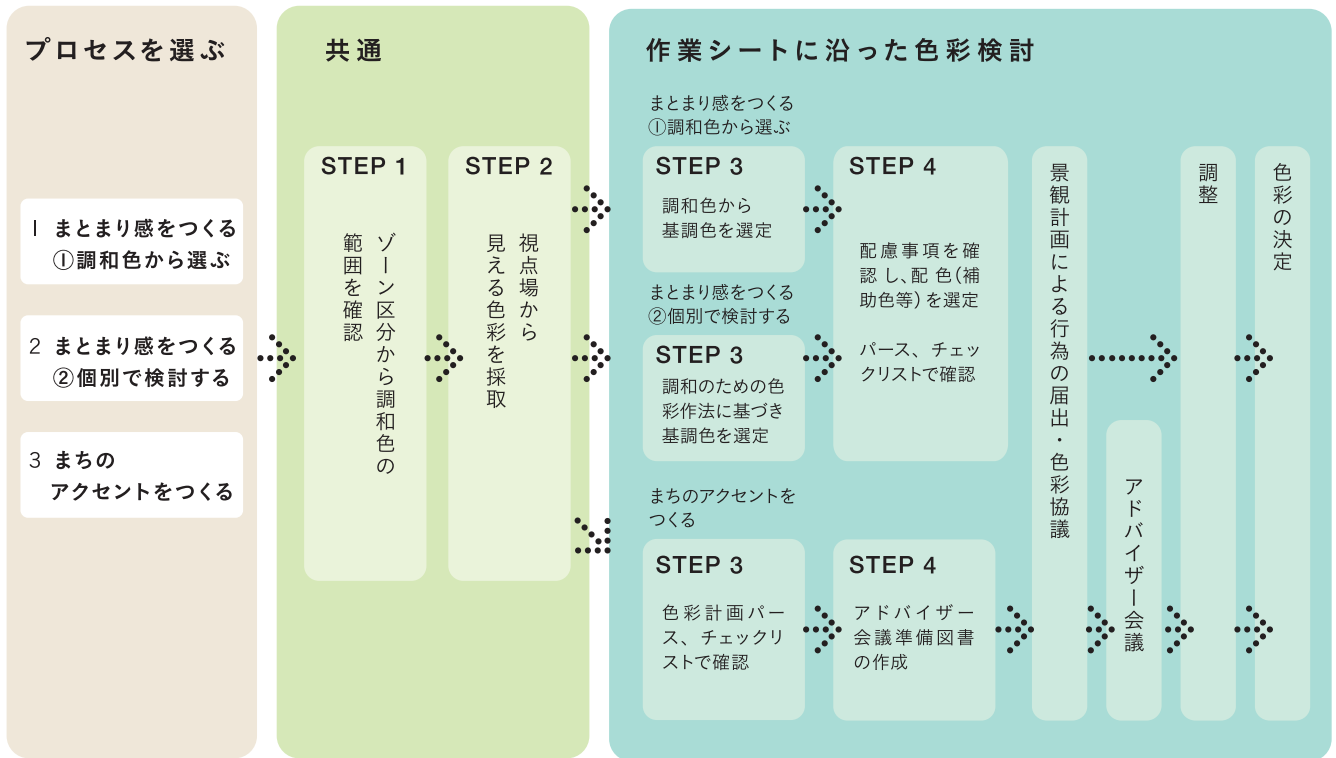
届出が不要な行為の場合は任意となります。

左記以外の行為

対象：小規模な建築物
（一般住宅）
小規模な工作物等

左記に示す行為・規模の建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更を届出の対象とします。

色彩検討の大まかな流れ



色彩協議について

景観法に基づく届出にあたっては、下記の色彩検討図書(例)を用いて協議をさせていただきます。

色彩検討プロセス	色彩検討図書の種類(例)			備考
	作業シート	チェックリスト	その他アドバイザー会議準備図書	
まとまり感をつくる ①調和色から選ぶ	○※1	○	—	※1 写真に色見本を布置した検討図とパース等シミュレーション図は別途添付して下さい。
まとまり感をつくる ②個別で検討する	○※1	○	—	
まちの アクセントをつくる	—	○	○※2	※2 その他のアドバイザー準備資料の色彩計画、パース等シミュレーション図、選定色は別途とりまとめて提出して下さい。

※色彩検討図書は、色彩検討プロセスごとで準備していただく内容が異なります。

ま
と
ま
り
感
を
つ
く
る
①
調
和
色
か
ら
選
ぶ



STEP 1

ゾーン区分から調和色の範囲を確認

- 1 計画所在地からゾーン区分を確認します。
- 2 対象とするゾーン区分の調和色の範囲を確認します。

※ 作業シート1に記入します。(P27 作業シート記入例参照)

※ P45～52のガイドライン参照

ただし、一般市街地ゾーンは、他ゾーンの調和色が適用される特例（P46一般市街地内の特例参照）に注意してください。

作業シートに沿った検討例

以下、写真の建築物の
塗装塗り替えに伴う外観の変更例です。

シート1	「ゾーン区分」 一般市街地ゾーン	シート2	「周辺の特徴」 海辺の緑豊かな自然
<p>ただし、この対象物の場合は海辺に面するため <u>海浜ゾーン</u>として扱います。</p>		<p>視点場の確認 遠景・近景、多様な中から確認します。</p>	
<p style="text-align: right;">検討対象</p>  <p>周辺の状況</p>  		 近景の通りから  遠景の岸辺から  砂浜から  俯瞰できる公園から	

STEP 2

視点場から見える色彩を採取



1 視点場を確認します (※P59 資料編 色彩の採取方法参照)

2 周辺の特徴を確認します

- ・背景や周辺に見られる景観の特徴を調べ、シート2に記入します。

3 視点場から見える色彩を採取します

- ・特徴的な景観の色彩を採取し、マンセル値をシート3に記入します。

特徴がない場合は平均的な周辺建築物等の色を採取します。

※色の採取に不安がある場合は、巻頭と資料編の「福岡の色」の色見本を参考に照合してください。

4 複数の視点場からパースに使用する視点場を選びます

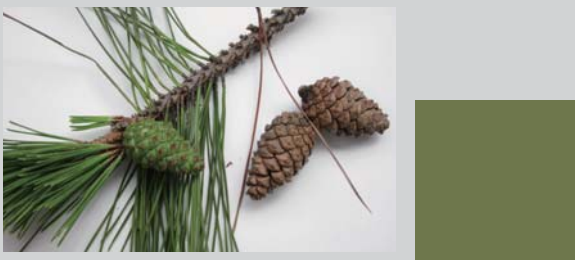
- ・選んだ視点場から計画建築物等又は計画地を入れた写真を撮影します。
- ・写真は周囲を広く取り入れたワイド写真かパノラマ写真とします。

シート3

「視点場から見える色彩」 海辺の緑豊かな自然

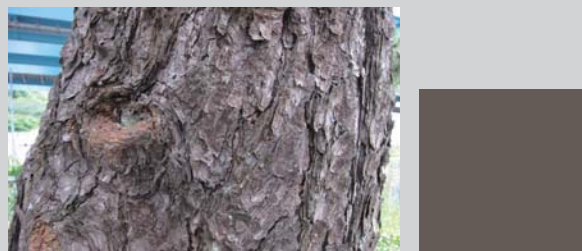
1 海浜の緑の松林(松葉)の色

色相：6.5GY 明度：4 彩度：6



2 海浜の緑の松林(幹)の色

色相：7.5YR 明度：4 彩度：1.5



3 海浜の砂浜の砂の色

色相：9YR 明度：6.7 彩度：3



4 海浜の砂浜の貝殻の色

色相：10YR 明度：9.2 彩度：1



STEP 3 調和色から基調色を選定



STEP 4 パース、チェックリストで確認 配慮事項を確認し、配色(補助色等)を選定

- 1 調和色の中から基調色の候補色を選びます。
 - 対象物の計画目的や内容に相応しい候補色をゾーン別の調和色の中から自由に選びます。
(※P45以降のゾーンのガイドライン参照)
- 2 周辺の特徴の中で大きな面積で見える背景色や特に大切にすべき色彩をシート3から選び、シート4に記入します。
- 3 基調色の絞り込みをします。
 - STEP 4のパースに使用する写真の上に上記2の背景色と大切にすべき色の正確な色見本を布置します。次に計画位置に1の候補色の色見本を布置します。
 - 色見本を布置した写真を見て、背景色を阻害せず、大切にすべき色彩景観を引き立てる基調色を絞り込みます。見え方によっては別の候補色を選択します。

- ・基調色だけを用いる場合はSTEP 3で選定は終了、パース等を作成します。
- ・補助色も用いる場合は配色の選定を行います。また都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合、見付面積の10%以内で同様に選定します。
- ・さらに色数を足す場合は補助色、賑わい色それぞれまとまりが保たれる範囲で使用します。

シート 4	「基調色の選定」 候補色
	候補色 1 色相：10YR 明度：7.5 彩度：1.5
	候補色 2 色相：7.5YR 明度：6.5 彩度：2
	背景色又は大切にすべき色 海浜の砂浜の砂の色 色相：9YR 明度：6.7 彩度：3
	選定した基調色 色相：10YR 明度：7.5 彩度：1.5 <small>例示では、検討の結果、落ち着いた色よりも海辺の明るい光景に調和する明るい色を選びました。</small>
<small>写真に色見本を布置した検討図</small>	

シート 5	「配慮事項確認と配色の選定」
(1) 視点場からの見え方	
<input checked="" type="checkbox"/> 主に遠景視で建築物全体が見える	→ 開放的な周辺環境を活かすため、上層部は基調色よりも高明度の補助色を用い、軽快なスカイラインを形成します。
<input checked="" type="checkbox"/> 近景・通り景観視で中層程度まで見える	→ 周辺の閉鎖的な印象や圧迫感を和らげるため、基調色と類似色相の濃淡配色となる明度が高めの色彩とします。
<input type="checkbox"/> 近景・通り景観視で低層部のみ見える	→ 周辺の閉鎖的な印象を和らげるため、明度の高い色彩を採用します。低層部の明度と彩度を隣接する建築物の低層部の色とあわせませす。
(3) 選定した補助色 / にぎわい色	
補助色	
	色相：7.5YR 明度：5 彩度：2
	色相：10YR 明度：8.5 彩度：1.5

1 視点場からの見え方を確認します。

- ・現地で計画建築物等がどのように見えるか、視点場からの距離やボリュームを確認し、例示の配慮事項に沿った配色を検討します。(例示シート 5(1))※P11 視点場を考える参照

2 周辺建築物との関係を確認します。

- ・周辺建物に対しての間口と高さの程度を確認し、例示の配慮事項に沿った配色を検討します。(例示シート 5(2))※建物の配色構成は P9 参照

3 パース等シミュレーション図を作成し、周辺との調和を確認します。

- ・STEP 2 の視点場からの写真を元にパース等シミュレーション図を作成し、補助色やにぎわい色を割り付けて着彩し、色彩計画の内容が適切であることを確認します。

4 STEP 1 から色彩の決定までの検討内容を
チェックリスト (P28) に沿って確認します。

(2) 周辺建築物との関係

- | | |
|----|---|
| 間口 | <input checked="" type="checkbox"/> 広い → ボリューム感を和らげるため横方向(縦ストライプ)の補助色の使い分けや低層部に補助色やにぎわい色を用いた壁面の分節化を検討します。基調色と補助色の明度差は極端に大きくつけないようにします。
<input type="checkbox"/> 同程度 → 周辺と合わせた佇まいや趣を継承した計画とします。(単色または塗り分けを検討します)
<input type="checkbox"/> 狭い → 周辺と色相が異なる明度の低い補助色は避け、まちなみの色と連続させます。(単色または塗り分けのどちらかを検討します) |
| 高さ | <input checked="" type="checkbox"/> 高い → ボリューム感を和らげるため高さ方向での補助色の使い分けを検討します。基調色と補助色の明度差は 3 以内とします。
<input type="checkbox"/> 同程度 → 周辺と合わせた佇まいや趣を継承した計画とします。(単色または塗り分けを検討します)
<input type="checkbox"/> 低い → 周辺と色相が異なる明度の低い補助色は避け、まちなみの色と連続させます。(単色または塗り分けのどちらかを検討します) |

にぎわい色

色相： 明度：
彩度：

色相： 明度：
彩度：



パース等シミュレーション図

※記入例：P23～26の事例に従い、記入例を表示しています

色彩検討のプロセス 「まとまり感をつくる ①調和色から選ぶ」の色彩検討図書

作業シート 記入例

- (注) 1 該当する□の中にレ印を付けてください。
 2 記載項目 _____には名称や数値等を記入して下さい。
 3 シート4の検討図とパース等シミュレーション図は別に作成し、添付して下さい。
 4 この表における色彩の表示は、マンセル値（日本工業規格 JIS Z8721 に定める色相、明度及び彩度の三属性の値をいう）の表示その他適当な方法により行うものとします。

シート1 ゾーン区分	ゾーン区分 <input checked="" type="checkbox"/> 一般市街地ゾーン <input type="checkbox"/> 都心ゾーン <input type="checkbox"/> 山の辺・田園ゾーン <input type="checkbox"/> 海浜ゾーン <input type="checkbox"/> 港湾ゾーン <input type="checkbox"/> 歴史・伝統ゾーン+「香椎宮と参道」及び「冷泉地区」(都市計画マスタープランに定める)		
	一般市街地ゾーン内の特例 (一般市街地を選んだ方)		
	山の辺・田園ゾーンを適用	海浜ゾーンを適用	都心ゾーンを適用
	<input type="checkbox"/> 風致地区内及び背景に風致地区 <input type="checkbox"/> 背景に特別緑地保全地区 <input type="checkbox"/> 緑の腕 みどりの基本計画 <input type="checkbox"/> 山すそ みどりの基本計画 <input type="checkbox"/> 河川景観軸沿い <input type="checkbox"/> 開けた水辺に面する(景観軸以外の河川、ため池)	<input checked="" type="checkbox"/> 開けた水辺に面する(海浜、干潟、河口)	<input type="checkbox"/> 沿道景観軸沿い <input type="checkbox"/> 広域拠点

シート2 周辺の特徴	1 自然 (自然景観 & 風土基盤) <input checked="" type="checkbox"/> 公園、神社、街路樹等があり、緑豊かな <input type="checkbox"/> 山並み、田園が広がる <input checked="" type="checkbox"/> 川、池、海浜、港がある <input type="checkbox"/> その他
	2 伝統 (建物の歴史) <input type="checkbox"/> 歴史的建築物や文化的資源等がある <input type="checkbox"/> その他
	3 建築物等 <input type="checkbox"/> マンションやビル群がある <input type="checkbox"/> 一戸建てがある <input type="checkbox"/> その他

シート3 見視 点場 から 色彩 ら	1 自然 (自然景観 & 風土基盤) 1: <u>松林松葉</u> の色 色相 <u>6.5GY</u> 明度 <u>4</u> 彩度 <u>6</u> 2: <u>松林幹</u> の色 色相 <u>7.5YR</u> 明度 <u>4</u> 彩度 <u>1.5</u> 3: <u>砂浜の砂</u> の色 色相 <u>9YR</u> 明度 <u>6.7</u> 彩度 <u>3</u>
	2 伝統 (建物の歴史) 1: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 2: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 3: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____
	3 建築物等 1: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 2: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 3: _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____

シート4 基調色の選定	候補色 1 色相 <u>10YR</u> 明度 <u>7.5</u> 彩度 <u>1.5</u> 候補色 2 色相 <u>7.5YR</u> 明度 <u>6.5</u> 彩度 <u>2</u>
	背景色又は大切にすべき色 背景 _____ の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 大切にすべき <u>砂浜の砂</u> の色 色相 <u>9YR</u> 明度 <u>6.7</u> 彩度 <u>3</u>
	選定した基調色 色相 <u>10YR</u> 明度 <u>7.5</u> 彩度 <u>1.5</u>
	写真と色見本を布置した検討図 ※A3サイズ程度の別用紙に作成し添付して下さい

4: 砂浜の貝殻の色
色相 10YR 明度 9.2 彩度 1

追加があれば、余白を使って記載下さい。

→ P25 検討例を参照下さい。

シート5 配色事項の確認と	視点場からの見え方 <input checked="" type="checkbox"/> 主に遠景視で建物全体が見える <input checked="" type="checkbox"/> 近景・通り景観視で中層程度まで見える <input type="checkbox"/> 近景・通り景観視で低層部のみ見える
	周辺建築物との関係 間口 <input checked="" type="checkbox"/> 広い <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 狭い 高さ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低い
	選定した補助色・にぎわい色 補助色 色相 <u>7.5YR</u> 明度 <u>5</u> 彩度 <u>2</u> 色相 <u>10YR</u> 明度 <u>8.5</u> 彩度 <u>1.5</u> にぎわい色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____
	視点場からのパース等シミュレーション図 ※A3サイズ程度の別用紙に作成し添付して下さい

→ 配慮事項等の考え方は、P25 検討例を参照下さい。

→ 配慮事項等の考え方は、P26 検討例を参照下さい。

→ P23～26の事例では、海浜ゾーンなのでにぎわい色は対象外となります。

→ P26 検討例を参照下さい。

※記入例：P23～26の事例に従い、記入例を表示しています

色彩検討のプロセス「まとまり感をつくる ①調和色から選ぶ」の色彩検討図書

チェックリスト (注) 1 該当する□の中にレ印を付けてください。

記入例

<p>STEP 1 ゾーン区分から 使用色範囲を確認</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> ゾーン区分は適切ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 一般市街地ゾーン内での特例適用は適切に行われましたか？</p>
<p>STEP 2 視点場から見える色彩を採取</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 視点場は遠景～近景の複数の視点場を設定しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺を色々と眺め、代表的視点場としましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の特徴に漏れはありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 視点場から見える色彩は周辺の特徴を的確に示した色ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 色の採取に不安がある場合は、「福岡の色」を参考に照合しましたか？ <input type="checkbox"/> 特徴が少ないか見当たらない場合の平均的な建築物の選定は適切ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> パースに使用する視点場は、計画建築物等と周辺景観の特徴を的確に表していますか？</p>
<p>STEP 3 調和色から基調色を選定</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 基調色の候補色は調和色範囲から選定しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 背景色又は大切にすべき色は適切ですか？ <input type="checkbox"/> 特徴が少ないか見当たらない場合の背景色又は大切にすべき色は平均的な建築物の色を用いましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 写真は、適切な大きさと周囲を加えたワイド又はパノラマ写真（あるいはつなぎ写真）としましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 正確な色見本として日本塗料工業会色見本帳等の印刷系ではないものを使用しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 写真上に布置した候補色や背景色の印象は、1人ではなく複数の関係する人で協議し、選びましたか？</p>
<p>STEP 4 配慮事項を確認し、 配色（補助色等）を選定</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 見え方の確認は適切ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見え方は計画建築物等から視点場までの距離に応じて変化しますのでP11～14調和のために必要な視点をご参照下さい。 ・遠景の視点場から見える場合は、山並み等が背景となり建築物の上層部の補助色と基調色の振り分けが効果的となります。 ・近景や通り景観等近くからの見えは、意識的に見上げない限り視線は低層部を見るため、中層部や低層部の通りとしての印象づくりへの配慮が必要となります。 この場合、周りとの色調や意匠をそろえる、自然素材と共通する色又は彩度の低い色に合わせるとまとまり感が高まります。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 周辺建築物との関係は適切ですか？ (補助色の使い分けや壁面の分節化)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 建築物の縦方向の印象をやわらげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調色よりも高い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる背景の明度と同程度の明淡色で重たくない色が効果的です。 ・基調色よりも低い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる低層部のまちなみと連続する濃色が効果的です。 <p><input type="checkbox"/> 建築物の縦方向を強調する&横方向の印象を和らげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助色を縦ストライプ等の縦使いとします；基調色と明度差3以内で類似色相の濃淡配色となる、背景の明度と同程度の明淡色又は濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 意匠的に色彩を使い分ける ・周辺の特徴（STEP 2）に個性が見られる場合や建築物に形態的特徴を持たせる場合、個性や形態を強調するモチーフで補助色をデザインします。この場合であっても、周辺景観とのまとまり感が保たれる範囲で選ぶように努めます。 <p><input type="checkbox"/> 都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合は、低層部に限定し、見付面積の10%以内で使用しましたか？ <input type="checkbox"/> にぎわい色は、歩いていて楽しい魅力的な空間づくりに関することから、周辺の通り景観の基調に合わせた自己主張を抑えたものとしたか？</p>
<p>パース、チェックリストで確認</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> パース等への基調色、補助色、にぎわい色の割付は適切に行いましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は全体としてまとまりがはかられていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は周辺景観のまとまり感と協調して連続性ははかられていますか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立てていますか？ ・四季折々を通じた配慮がされていますか？ <p><input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮いて見えることなく基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・ボリューム感は軽減されていますか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ <p><input type="checkbox"/> にぎわい色の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極力小面積に抑えましたか？ ・補助色で対応できるか検討し、可能な場合は補助色の中から選びましたか？